



業務課O君の改善報告

O君は、化粧品製造会社の業務課で仕事をしています。その仕事の中に出荷した製品を金額として集計する作業があるのですが、O君はこの仕事が苦手でした。

それというのも、同じ製品なのにA社とB社とでは、箱に梱包される数量も個あたりの単価も違うのです。売上を求めするためには、次の作業が必要です。

1. A社向け箱数×梱包数(A社用)×個当たり単価(A社用) = A社向け売上
2. B社向け箱数×梱包数(B社用)×個当たり単価(B社用) = B社向け売上
3. A社向け売上 + B社向け売上 = 合計売上

これを製品毎に電卓を使って計算するのですが、時間もかかるし間違えることもありました。

何とかもっと簡単に作業が出来ないかいつも思っていました。そんなときに、O君は「郵便料金早見ハカリ」というというハカリを見つけ、あることを思いついたのです。

郵便料金早見ハカリ

「郵便料金早見ハカリ」とは？

郵便料金を知るためには、郵便の重さを計った後、郵便料金表でその重さに該当する料金を調べるといふ、二段がまえの作業が必要でした。

そこで、重さと料金が一目で見られるように、ハカリの内側に料金表を貼り付けた。一発で料金がわかり、見間違いもなくすという優れたものです。

マトリクス図で計算をなくせ！

「郵便料金早見ハカリ」の優れたところは、目盛りを見ればそこにもう答えがあるということです。

そこで、A社向け箱数とB社向け箱数さえわかれば、すぐに答えがわかる一覧表(マトリクス図)を作成することにしました。

縦軸をA社箱数、横軸をB社箱数にして、その交わる交点に、合計金額が記入してあるようにしたのです。

例えば、A社が5箱、B社が3箱の場合、4500円と一目でわかります。

(右図参照)

売上金額マトリクス図

(単位：千円)

A社 \ B社		B社			
		1箱	2箱	3箱	4箱
A社	1箱	1100	1600	2100	2600
	2箱	1700	2200	2700	3200
	3箱	2300	2800	3300	3800
	4箱	2900	3400	4100	4600
	5箱	3500	4000	4500	5000
	6箱	4100	4600	5100	5600

改善の3原則は、「やめる。へらす。カエル」といわれます。

不必要な作業はやめられないか、機能や成果に影響が無ければこの作業は減らせないか、減らすことが出来ないなら、もっと楽なように変えられないかと考えていくのです。

そのように見ていくと、以外に身の回りには「やめる。へらす。カエル」対象が多いことに気がつきます。